

令和5年1月30日
港区

港区

「地域包括ケアの推進に関する事業」

令和4年度報告(令和4年12月末現在)

【掲載内容】

- 1 港区の地域包括ケアの推進について
- 2 地域包括ケアを推進する会議報告
- 3 地域包括ケア推進を推進する連絡会の報告
- 4 福祉総合窓口
- 5 港区在宅療養相談センターの運用
- 6 在宅療養後方支援病床の運用実績
- 7 地域包括ケア研修会の実施報告
- 8 支援者のための関係機関連携ガイドブックについて
- 9 普及啓発
- 10 コミュニティソーシャルワーカーの活動報告

港区保健福祉支援部保健福祉課

1 港区の地域包括ケアの推進について

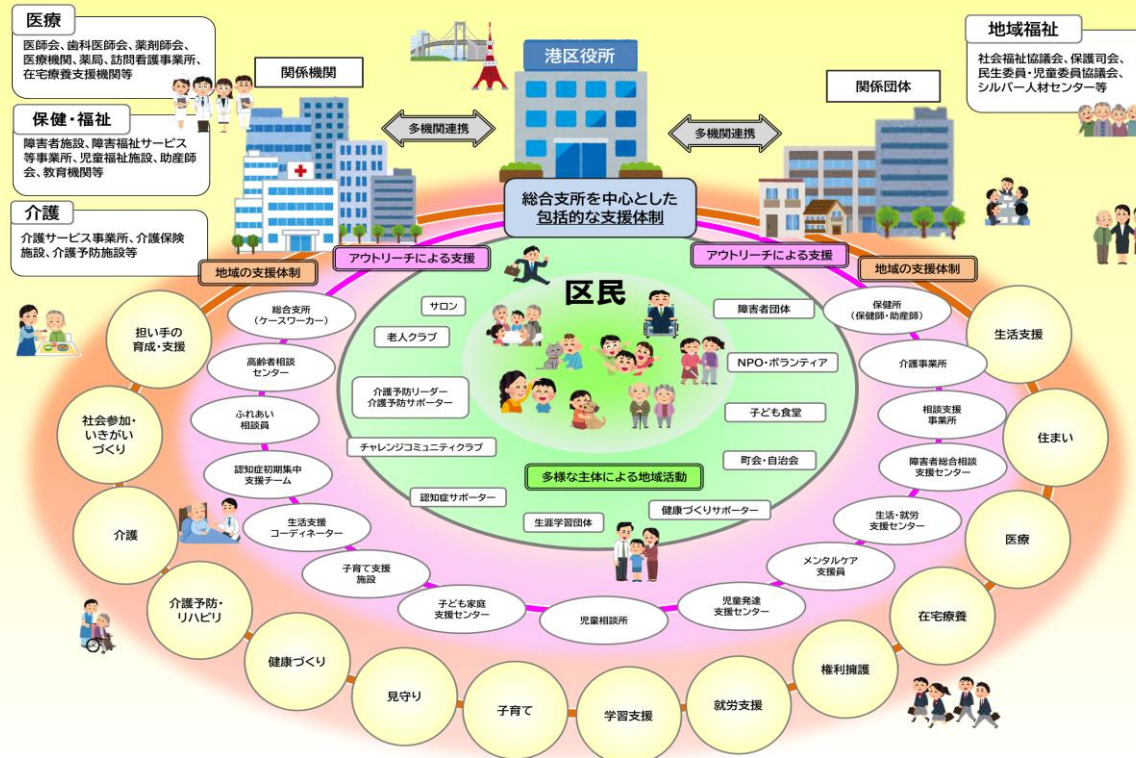
(1) 区をめざす地域包括ケアのネットワーク

区は、全ての区民が地域社会を構成する一員として、住み慣れた地域で安心して暮らし続け、多様な社会参加ができるよう地域全体が相互に協力し、支え合う地域包括ケアを推進してまいります。

区がめざす地域包括ケアの将来像

港区全体が相互に協力し支え合い、全ての区民が地域社会を構成する一員として、住み慣れた地域で安心して暮らし続け、多様な社会参加ができるまちの実現をめざします。

港区のめざす地域包括ケアのイメージ



多様な主体による地域活動
 区民を取り巻く多様な地域で活動する団体などとの連携

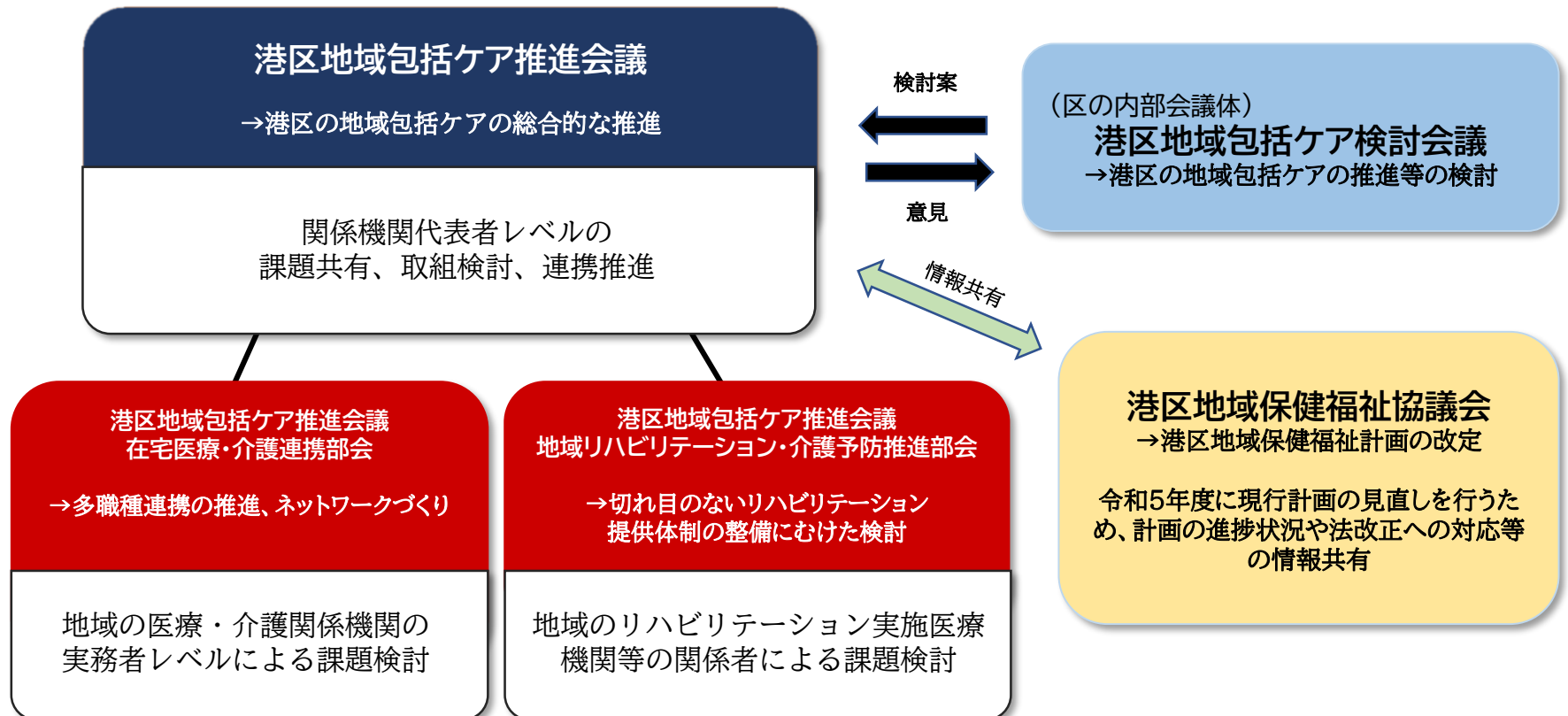
アウトリーチによる支援
 介護保険や医療保険、福祉サービス、専門機関の相談員等のアウトリーチ等の活動の連携

地域の支援体制
 総合支所を中心とした多機関・多職種連携を推進

(2) 港区の地域包括ケアの推進体制

港区ならではの地域包括ケアの推進に関する事項や更なる多機関・多職種連携を推進する協議のため、区では港区地域包括ケア推進会議設置要綱に基づき、各種会議を開催しています。

令和4年度の港区の地域包括ケアを推進する体制



2 地域包括ケアを推進する会議報告

(1) 港区地域包括ケア推進会議

港区の地域包括ケアの推進に向けた取組及び調整のほか、各分野相互の情報共有等を協議しています。

回数	開催日	議 題 等
第1回	令和4年7月28日 (リモート・参集併用)	講演 コミュニティソーシャルワーカー (CSW) の取り組みについて 講師 加藤 三奈 (港区社会福祉協議会) 1 港区の地域包括ケアの推進の進捗状況等について 2 令和4年度の港区の地域包括ケアの推進について 3 福祉総合窓口の設置について
第2回	令和5年1月30日 (予定) (リモート・参集併用)	

(2) 在宅医療・介護連携推進部会

港区の在宅医療及び介護に関する連携の推進のため、各団体等の情報共有やガイドブックの作成等を検討しています。

回数	開催日	議 題
第1回	令和4年5月27日 (リモート・参集併用)	1 港区在宅療養相談窓口について 2 福祉総合窓口の設置について 3 支援者のための関係機関連携ガイドブックについて
第2回	令和4年11月11日 (リモート・参集併用)	1 港区在宅療養相談センターの運営状況について 2 福祉総合窓口の運営状況について 3 支援者のための関係機関連携ガイドブックの活用について
第3回	令和5年3月10日 (予定) (リモート・参集併用)	

(3) 地域リハビリテーション・介護予防推進部会

地域リハビリテーション及び介護予防に関する取組の情報共有や関係団体等との連携の推進について検討しています。

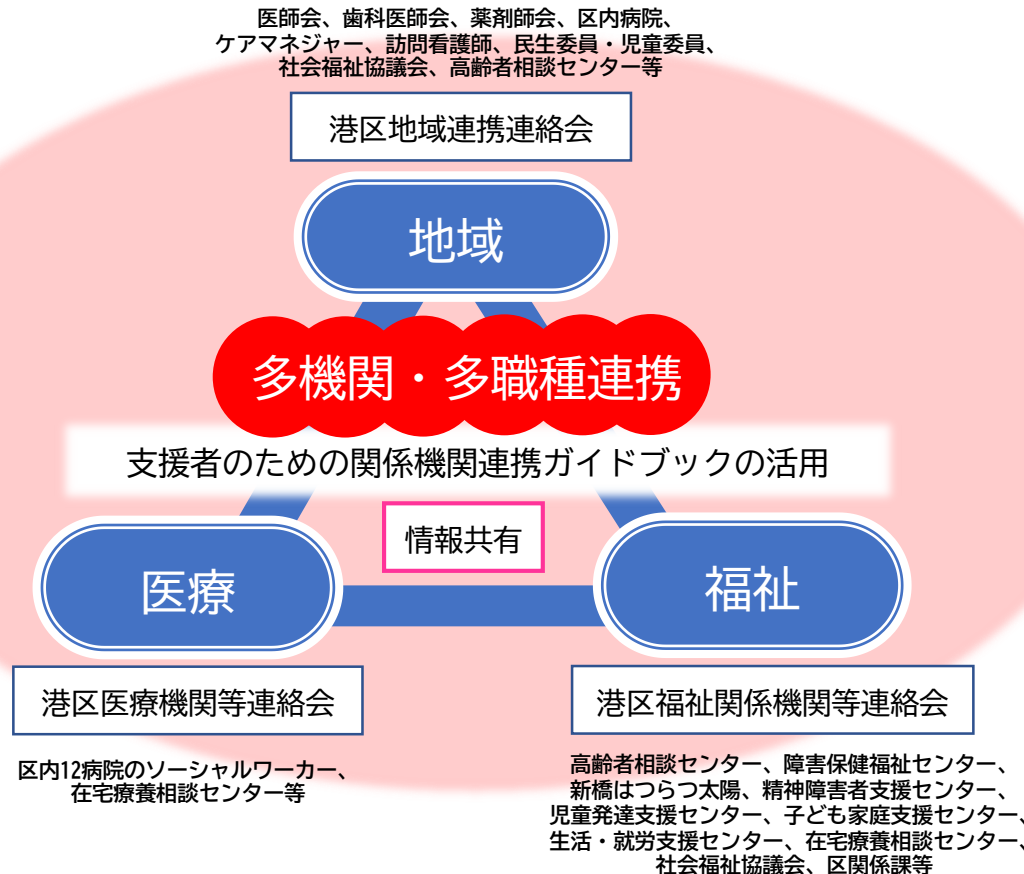
回数	開催日	議 題
第1回	令和4年11月7日 (オンライン会議)	1 「回復期リハビリテーション病院連携調整アンケート」の更新について 2 区からの情報提供 3 介護予防総合センター・ラクっちゃんの施設・事業紹介 4 区中央部地域リハビリテーション支援センターの活動について 5 情報共有 (各委員から)

3 地域包括ケア推進を推進する連絡会の報告

(1) 連絡会の体制

地域包括ケアの推進のため、これまでの取組を踏まえ、多機関・多職種の一層の推進を図るため、地域・福祉・医療の分野を中心とした地域で活動する機関や団体等による連絡会を開催し、情報や課題の共有を図るとともに、グループ討議等を行いました。

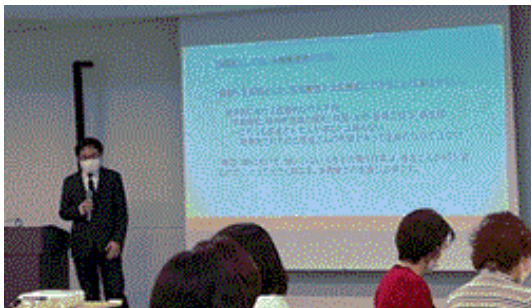
(2) 相関図



(3) 港区地域連携連絡会

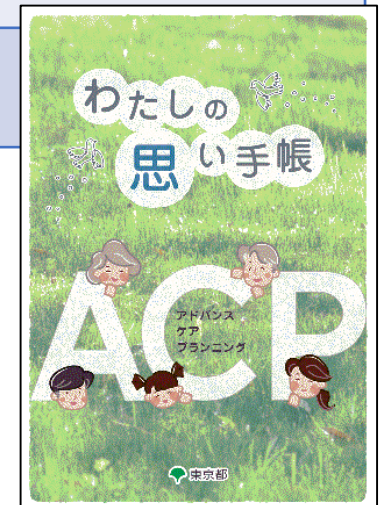
相談対応の検証や医療資源の情報共有及び地域課題に関する検討などを中心に、各関係団体等との関係性の構築を目指す目的として、港区地域連携連絡会を開催しました。

日時	令和4年10月21日（金）19時30分～20時40分
会場	港区立介護予防総合センター 研修室
参加者	22人(医師会、歯科医師会、薬剤師会、区内病院、ケアマネジャー、訪問看護師、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、高齢者相談センター等)
議題等	講演 “在宅療養の今”と“ACP”について 講師 安田 淳（一般社団法人東京都港区医師会 常務理事） 1 港区在宅療養相談センターの実績と福祉総合窓口について 2 各機関からの情報提供等
内容	講演として、講師から見る「在宅療養の今とACPについて」を行い、参加者と意見交換をしました。区から在宅療養相談センターの事業実施状況と福祉総合窓口の運営状況の説明をし、質疑応答のほか、参加者から各機関に関する情報提供や意見交換を行いました。
参加者の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ ACPについて、改めて考えるきっかけになると感じた。 ・ 地域包括ケアを推進していくために、この連絡会を続けてほしい。



▶ 港区地域連携連絡会の様子

【講演参考資料】 ▶
東京都福祉保健局発行
「わたしの思い手帳」



(4) 港区福祉関係機関等連絡会

令和4年8月に各総合支所区民課に設置した福祉総合窓口を効果的に機能させるため、福祉に関する各分野の相談を実施している関係者間の連携を深め、日常的に情報共有が図れる関係づくりを目的として、令和2年度から港区福祉関係機関等連絡会を開催しています。

第1回	日時	令和4年6月23日（金）15時30分～17時
	会場	区役所内会議室 ※オンライン併用
	参加者	25人(各地区高齢者相談センター、障害保健福祉センター、新橋はつらつ太陽、精神障害者支援センター、子ども家庭支援センター、生活・就労支援センター、在宅療養相談窓口、社会福祉協議会、区関係課等)
	議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉総合窓口の設置について 2 支援者のための関係機関連携ガイドブックについて 3 福祉総合窓口の相談対応の体制や連携方法について 4 その他、情報交換等
	内容	福祉総合窓口の設置のスケジュールや支援の流れの情報を共有し、相談対応体制や連携方法について意見交換しました。また、8月発行の「支援者のための関係機関連携ガイドブック」の構成案を共有しました。
参加者の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉総合窓口のリモート相談（Teams）は、繋ぐときの連絡方法や役割について一定のルールをあらかじめ決める必要がある。 ・複数の関係機関が関わるケース対応について、とりまとめ役が必要である。 ・会議等の開催に共通のルールなどの仕組みが必要である。 	

当日の配布資料（抜粋）

第2章 関係機関連携のためのポイント

連携のための港区合言葉『つなぐ』

支援者に向けた関係機関連携ガイドブックの作成にあたり、連携の合言葉を作りました。

つねに互いの専門性に敬意を持ち、丁寧な対応を心がけましょう。

職種により立場、制度、関連する法律、必要な情報が異なります。お互いの専門性や各職種の立場や思いやりを持って理解し、丁寧な対応を心がけましょう。お互いを尊重せず、気持ちよく仕事をしましょう。

関係機関連携のための基本的なポイント チーム支援☆

何気ないことでも、情報交換・共有を忘れずにしましょう。

日々の働きで知りえた情報は、一般的なマナーを守り、内容をあらかじめまとめ、連絡をとりましょう。お互いに限られた時間の中で仕事をしています。どの程度急ぐ要件か判断して連絡しましょう。

関係機関連携のための基本的なポイント ☆会議の開催☆

具体的なコミュニケーション方法やツールを使い連携を深めましょう。

関係機関が円滑に情報共有できるよう、どんな方法、どれくらいの頻度で連絡するのかを決めておきましょう。

関係機関連携のための基本的なポイント ☆成年後見制度・認知・看取り・ヤングケアラー・家族支援・意思決定支援・遺持☆

『つなぐ』を意識して、どのように連携を図ればいいのか、本人の意思を尊重し支援していくには、どんなことに気を付けていけばいいのかも、関係機関連携のための基本的なポイントとして具体的にまとめました。それぞれの項目の中で一通くごさい。

すでに日常的に取り組まれていることもあると思いますが、支援を開始するときの連絡や新たな支援方針を検討する際に活用いただけ

4

第2回	日時	令和4年11月14日（月）15時～17時
	会場	港区立神明いきいきプラザ 集会室A・B
	参加者	26人（各地区高齢者相談センター、障害保健福祉センター、新橋はつらつ太陽、精神障害者支援センター、児童発達支援センター、子ども家庭支援センター、生活・就労支援センター、在宅療養相談センター、社会福祉協議会、区関係課等）
	議題	1 福祉総合窓口の運営状況について 2 グループディスカッション テーマ1「福祉総合窓口のメリットを区民が実感するために、福祉関係機関としてできること」 テーマ2「複合的課題の解決に向け連携をよりスムーズにするために、福祉関係機関としてできること」
	内容	令和4年8月に設置した福祉総合窓口の運営状況等について情報を共有し、多職種連携を目的としたグループディスカッションを行いました。なお、グループディスカッションでは意見交換後、全6グループが話し合った内容を発表しました。 ※テーマごとにグループを入れ替えて実施しました。
参加者の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関の役割を理解し、互いをよく知り、情報を共有することが必要である。 ・顔の見える関係づくりが必要である。 ・複合的課題を抱える世帯のケースの場合、まとめ役となる司令塔を誰が担うのかが問題。その役割をする人が大事である。 ・福祉総合窓口のさらなる周知をするべきである。 	



★開催方法について

第1回港区福祉関係機関等連絡会で

- ・「情報共有の重要性」
- ・「各関係機関との連携」
- ・「関係性の構築」について

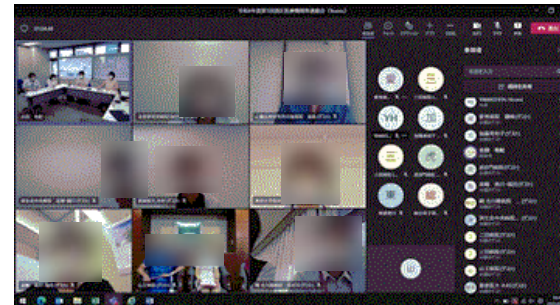
関係機関と意見交換等をしたといったご意見を参考に、参集によるグループディスカッションを実施しました。

第2回港区福祉関係機関等連絡会の様子

(5) 港区医療機関等連絡会

港区ならではの地域包括ケアの推進のため、医療機関と在宅療養等に関する情報共有などの連携強化を図り、ケース対応等におけるネットワークの構築を目的として、港区医療機関等連絡会を開催しました。

日時	令和4年7月12日（火）16時～17時
会場	オンライン開催
参加者	27人(区内12病院のソーシャルワーカー、在宅療養相談センター等)
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉総合窓口の設置について 2 港区在宅療養相談センターの開設について 3 支援者のための関係機関連携ガイドブックについて
内容	区から令和4年8月に設置する福祉総合窓口の概要について情報を共有し、令和4年7月に2カ所の窓口を統合し、港区在宅療養相談センターとしての運営状況等について報告しました。作成中の多職種連携に向けた「支援者のための関係機関連携ガイドブック」の概要や構成案について報告しました。
参加者の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区の担当者から、直接、区の事業や制度の説明を聞きたい。 ・ 外国人の医療費等の問題について、情報共有したい。 ・ 区と医療機関が連携する機会を、今後も継続的に連絡会を開催してほしい。



医療機関等連絡会の様子

4 福祉総合窓口

令和4年8月に各地区総合支所区民課の相談体制を見直し、ひとつの窓口であらゆる福祉相談を受け止め、支援につなげる「福祉総合窓口」を設置しました。

(1)概要

①対応時間

平日 午前8時30分～午後5時

②相談体制

- ・区職員(相談支援班、庶務給付班、保健師【輪番で1名】)
- ・障害者基幹相談支援センター職員(会計年度任用職員) 1名
- ・高齢者相談センター(地域包括支援センター) 職員 1名
- ・庁舎外の組織・機関とはリモートで連携

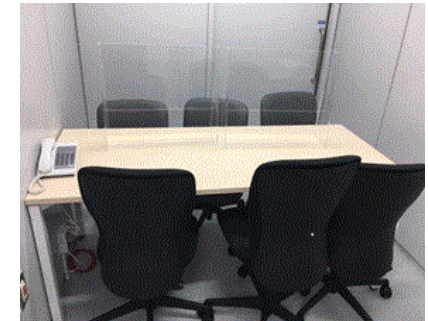
③相談環境

- ・相談カウンター(窓口によって3～5か所。台場は1か所)
- ・相談室(1～3室。台場はなし)

【参考】相談環境①(麻布地区総合支所)



相談カウンター



相談室

(2)福祉総合窓口の案内マーク



<ポイント>

- ・外周の三角形は、区、福祉関係機関、地域団体の連携を表現
- ・中央の4つのハートは相談者世帯を表し、大小異なる大きさで家族を表現
- ・相談者世帯を相談員、区、福祉関係機関、地域団体に支える体制を表現
- ・使用するカラーは、港区の紋章と同じ江戸紫色を使用

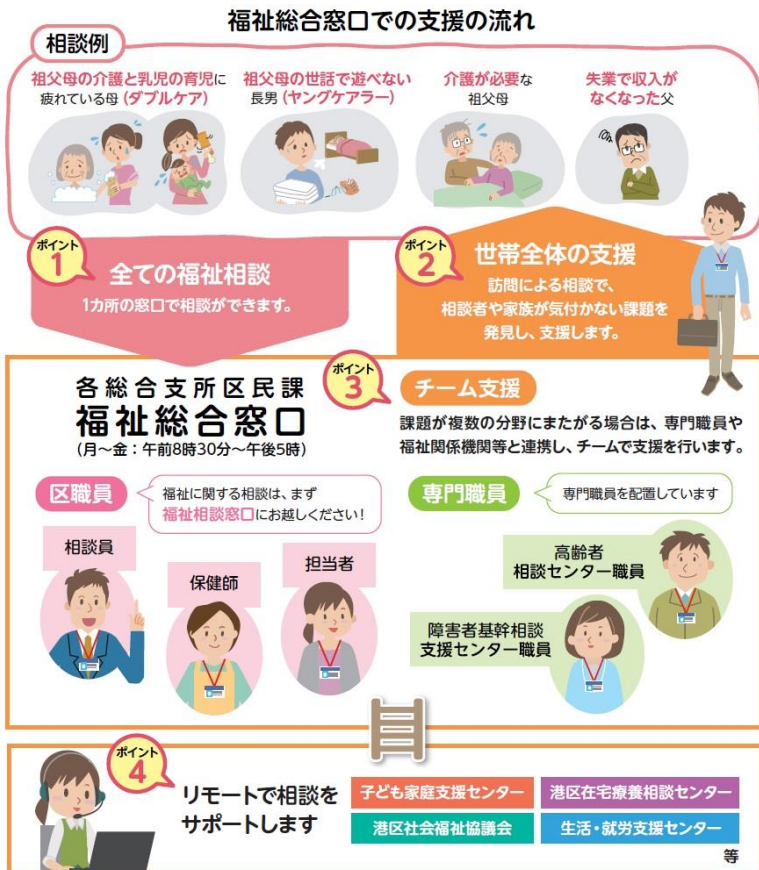


(赤坂地区総合支所)

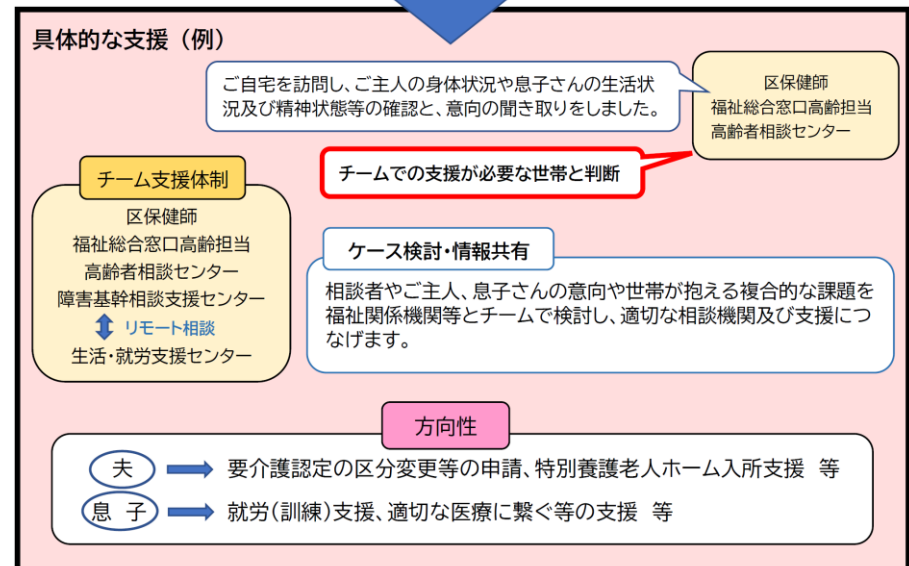
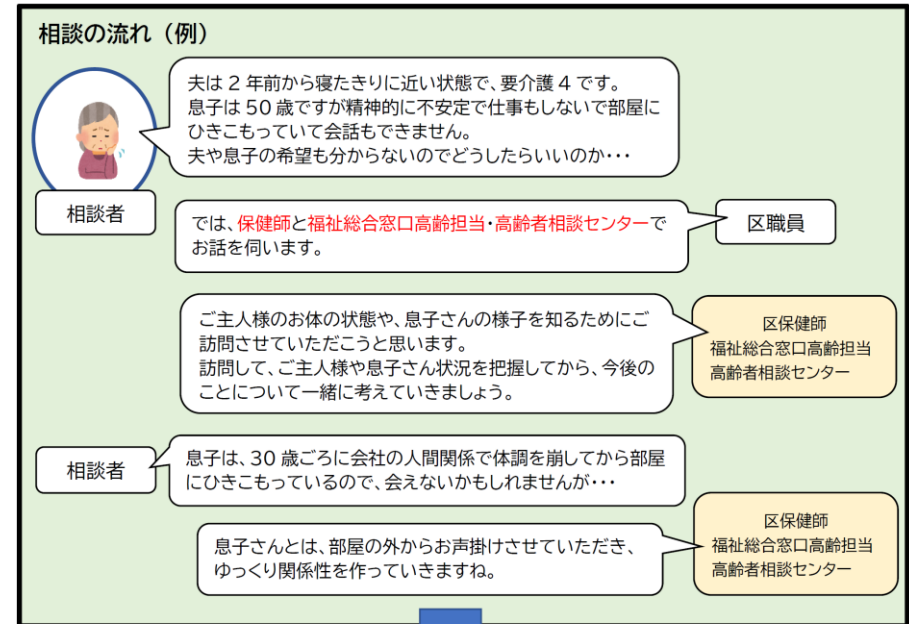
(3)運営状況

福祉総合窓口では、区民等の相談者からの相談の背景や世帯の状況等を丁寧に傾聴し、家族等にも支援が必要であると判断した場合、世帯全体を支援していく対応を進めます。

世帯が抱える課題の解決に当たっては、相談記録システムに登録している相談者や家族の相談履歴を確認した上で、生活状況の全体把握に努めながら、福祉関係機関等と連携した必要な支援につなげています。



福祉総合窓口の相談対応イメージ (8050問題)



5 港区在宅療養相談センターの運用

平成29年度に開設した在宅療養相談窓口は2カ所で実施してきましたが、福祉総合窓口の設置により、区内5か所の総合支所で在宅療養に関するリモート相談が可能となるため、令和4年7月1日から1カ所に統合しました。

港区在宅療養相談センター（以下「センター」という）は、医療機関及び福祉関係機関への訪問等により連携を一層進め、退院から在宅への相談対応や在宅療養に関する情報共有等、相談の機能強化を図りました。



(1) 相談実績（令和4年12月末現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者数	33	23	26	21	33	20	21	20	21	—	—	—	218

1カ月あたりの対象者数

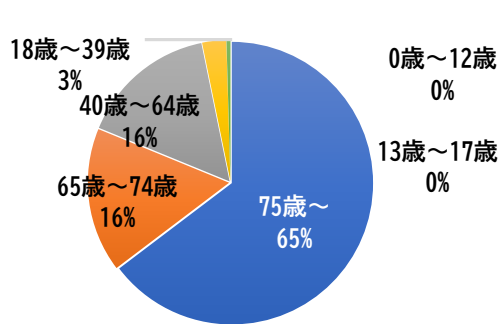
令和4年度 約 24 人

令和3年度 約 22 人

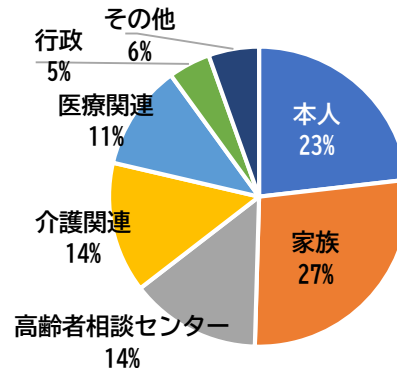
令和2年度 約 19 人

※1人の対象者に対し、複数の相談者に対応する場合がありますため、対象者と相談者は同数ではありません。

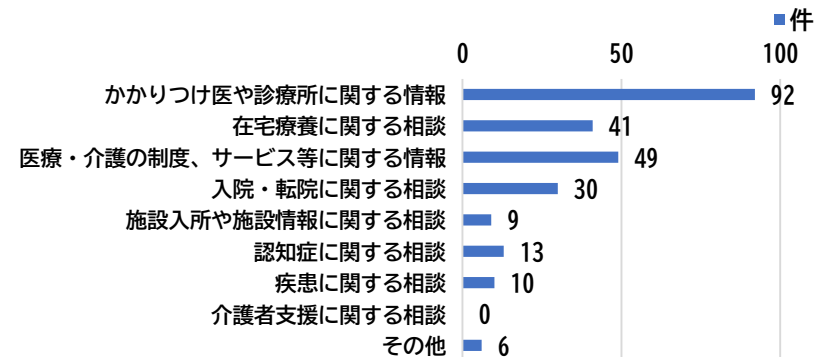
対象者の年齢



対象者との関係（相談者n=220）



相談内容（対象者218人 複数計上あり）



(2) 相談対応の連携

センター開設以降、これまでの三師会等の連携のほか、福祉総合窓口との連携強化のため、区内の障害者施設や生活・就労支援センター等の訪問やリモートを活用した相互の取組や運営状況等の共有を進めています。

また、区内12病院の医療ソーシャルワーカー等との連携を深めるため、事例等の共有や、今後の連携方法等について確認を行いました。

6 在宅療養後方支援病床の運用実績(令和4年12月末現在)

区内2病院(東京高輪病院、古川橋病院)と協定を締結し(平成29年3月22日)、一時的な入院が必要な区民が、速やかに入院することができる病床を確保することを目的とし、運用しています。



▲東京高輪病院



▲古川橋病院

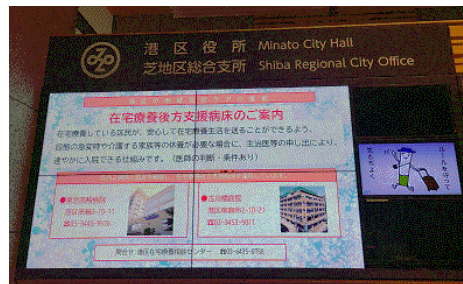
(1) 入院目的

	レスパイト	介護者の急病・介護困難	対象者の加療	合計
件数	31	18	74	123
年間件数		令和3年度 134件	令和2年度 139件	令和元年度 186件

(2) 利用者の年齢区分

	64歳以下	65歳～74歳	75歳以上	合計
人数	6	11	106	123

(3) 周知状況(例)



デジタルサイネージ

総合支所をはじめ区内50箇所の施設に設置し、広報番組や各部署からののお知らせ等を発信

各種パンフレット

港区在宅療養相談センターや港区在宅療養ガイドブックに掲載



(4) 港区在宅療養相談センターとの連携

在宅療養後方支援病床の利用方法や運営状況等について、定期的に連絡会を開催し、情報を共有しています。

7 地域包括ケア研修会の実施報告

	第1回	第2回	第3回（開催予定）
日時	令和4年7月22日（金）19時15分～20時30分 （オンライン開催）	令和4年10月28日（金）19時15分～20時30分 （オンライン開催）	令和5年2月10日（金）19時15分～20時30分 （オンライン開催）
参加数	155人	136人	先着 200人
担当病院	東京慈恵会医科大学附属病院	東京都済生会中央病院	北里大学北里研究所病院
テーマ	互いが笑顔で良き時間を過ごすために ～医療・介護現場でのハラスメント～	内服管理が困難な患者さんへの 多職種連携による包括ケア	多職種でサポートしよう！ オーラルフレイル予防
講師	特別講演 「対応困難なケースや家族の理解と対応」 ～保健医療福祉の現場から～ 世田谷保健所 所長 向山 晴子 ワンポイントアドバイス 「こんな時どうする！？」 ～困った時の対応について～ 学校法人 慈恵大学 法人事務局 総務部付 渉外室次長 警視庁OB 門間 和弘	基調講演 「多職種連携でつないだ服薬管理 ～薬剤師からの視点～」 港区薬剤師会 理事 柏 教子 薬剤師 特別講演 「高齢者への処方方の工夫 ～多職種連携で安心できる処方を～」 むすび葉クリニック渋谷 副院長 荒川 千晶 医師	基調講演 「オーラルフレイルとその予防」 東京歯科大学老年歯科補綴学講座 主任教授 上田 貴之 歯科医師 特別講演 「港区 みんなの食と健口講座の現状と内容 ～健康長寿へ、歯科衛生士の役割～」 麻布十番商店街歯科 高橋 里紗子 歯科衛生士
共催	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、東京慈恵会医科大学附属病院	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、東京都済生会中央病院	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、北里大学北里研究所病院



第1回 地域包括ケア研修会の様子



第2回 地域包括ケア研修会の様子

8 支援者のための関係機関連携ガイドブックについて

港区ならではの地域包括ケアの推進のため、多機関・多職種連携を円滑に図れるよう、支援者のみなさんのより良い関係性の構築に向け、連携するためのポイント等をまとめ、令和4年8月に発行しました。

発行以降に、区内12病院、介護事業者（ケアマネジャー、訪問看護師など）、港区社会福祉協議会、高齢者相談センター等の福祉関係機関、各総合支所区民課、みなと保健所等に配布しております。



(1) 主な経過

令和2年に、在宅療養ガイドブック（平成30年度発行）の支援者向け版の作成について検討開始。
令和2年9月以降、在宅医療・介護連携推進部会で、順次意見聴取を実施。



令和2年9月	在宅医療・介護連携推進部会で意見聴取
令和3年3月	ガイドブック骨子を整理
9月	掲載内容等の構成の調整
11月	福祉関係機関等に向けアンケート実施
令和4年3月	アンケート結果の反映
6月	掲載する医療機関等に内容確認
8月	発行

(2) 構成

項目	掲載内容
第1章 港区の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 港区の地域包括ケアの推進 ・ 港区の福祉総合窓口を中心とした支援
第2章 連携のためのポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携の手法に関するポイント (チーム支援・会議の開催) ・ 各場面におけるポイント (成年後見制度・ACP「人生会議」・看取り・ヤングケアラー・家族の支援・意思決定支援・虐待)
第3章 区内の主な相談窓口の紹介	施設等連絡先一覧・対象年齢一覧の掲載のほか、各施設の「主な事業」「利用対象者」「連絡をとるときの留意点」について全14施設掲載
第4章 区内の主な医療機関・相談窓口等	港区三師会、区内病院一覧、相談窓口一覧（「東京都・民間相談機関」、「港区の相談窓口」）の連絡先

(3) 各関係機関等のガイドブック活用状況について

活用されたみなさんからは、「掲載内容をもとに情報共有が円滑に図れた」、「制度や連絡先を確認する際に活用した」等のほか、「困難ケースの対応時等に会議の進め方などのポイント活用していきたい」など今後の対応に活かしていきたいなどの意見をいただいています。

また、福祉総合窓口における複合的な課題への対応に向け、8050問題やヤングケアラーなどに関する連携先のほか、看取りや成年後見制度などの意思決定支援に関する連携先について、具体的な相談先などの掲載を希望するなどの意見をいただいています。

9 普及啓発

(1) 区民公開講座

港区ならではの地域包括ケアの取組について、区民や関係する施設職員、相談員等を対象に、区民公開講座を開催しました。

日時	令和4年11月16日（水）14時～16時30分
会場	港区立男女平等参画センター リーブラホール
参加者	62人(区民、区・区施設、民生委員・児童委員、高齢者相談センター、港区社会福祉協議会など)
テーマ	港区ならではの地域包括ケアの推進について ～福祉総合窓口の活用を考えよう～
プログラム	第1部 講演「福祉総合窓口設置と地域課題への対応について」 講師：明治学院大学 名誉教授 河合 克義 第2部 トークセッション「地域課題と福祉総合窓口の活用について」 コメンテーター：明治学院大学 名誉教授 河合 克義、港区社会福祉協議会 加藤 三奈
内容	第1部では、港区ならではの地域包括ケアの取組の紹介と福祉総合窓口の設置、地域課題について、ご講演いただきました。第2部のトークセッションでは、福祉総合窓口が設置されたことで、区民や関係機関等が相談先に迷うことがなくなった利便性や、医療的なことや精神疾患等の相談対応を担う保健師の役割の重要性、8050問題やヤングケアラーなどの複合的な課題を受け止め関係機関と連携するための関係性の構築の必要性について話し合いました。
アンケートの意見	・福祉総合窓口の役割について理解を深めることができ、大変勉強になった。 ・より具体的な相談事例を用いて、福祉総合窓口の対応を聞きたい。
まとめ	行政や関係機関等だけではなく、今後は地域と連携し、福祉総合窓口の活用に繋げていくことの重要性を確認する場となりました。



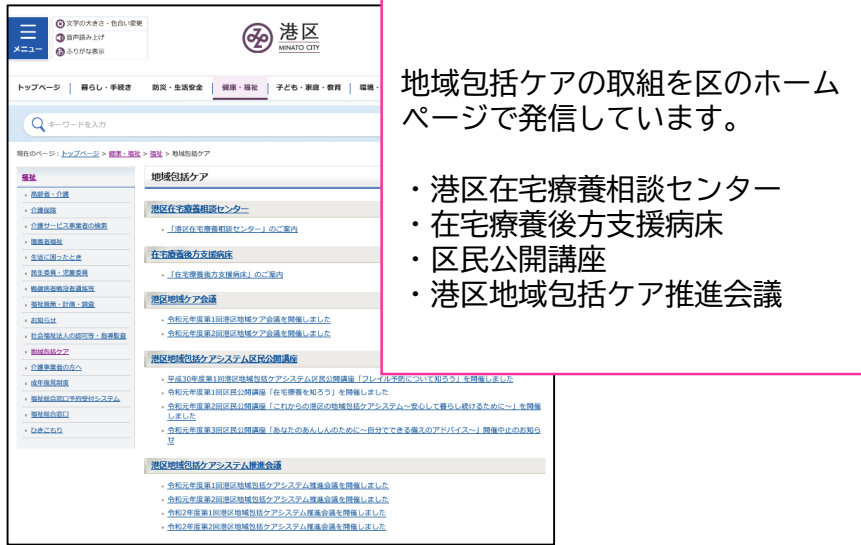
令和4年度第1回
区民公開講座の様子



令和4年度第1回
区民公開講座のチラシ

(2) 広報媒体

①区ホームページ



③区主催のイベント・啓発チラシの作成

港区介護予防フェスティバルの会場にパネルを作成し、地域包括ケアの取組を展示しました。

- 開催日
令和4年12月3日(土)
- 開催場所
港区立介護予防総合センター ラクucchャ

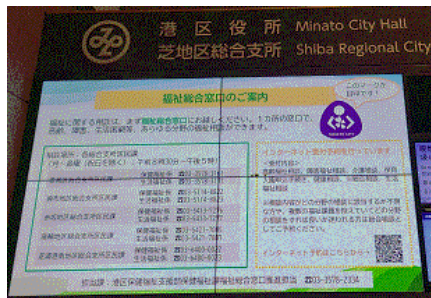


▲港区介護予防フェスティバルチラシ



②デジタルサイネージ

総合支所をはじめ区内50箇所の施設に設置しているデジタルサイネージを活用し、地域包括ケアの取組を発信しています。



▲福祉総合窓口

▼港区在宅療養相談センター



▶ 啓発チラシ

④その他周知啓発活動

区民等の皆さんが主催する学習会や「生涯学習出前講座」のほか、医療機関や介護事業者等に向けて、地域包括ケアの取組の啓発をしています。

10 コミュニティソーシャルワーカーの活動報告

(1) コミュニティソーシャルワーカー(CSW)とは

介護、育児、障害、ひきこもりなど、複数の課題を抱えてどこに相談したらいいかわからずに困っている場合や、地域に心配している人がいる場合などに、港区社会福祉協議会職員がコミュニティソーシャルワーカー（CSW）として、一緒に解決方法を考えます。対象者本人の年齢制限はなく、子育て世代、高齢者、障害者を問わず受け付けています。

また、地域住民や関係機関等と連携して、解決に向けた支援や新しい仕組みづくり、地域でのネットワーク構築に向けた取組を進めます。

(2) 相談支援対応数(令和4年12月末現在)

(単位：件)

区分	年度	3	4
新規		138	97
継続(延べ)		599	416
終了		76	62



コミュニティ
ソーシャルワーカーのチラシ

(3) 主な講演会等啓発活動

実施月	内容
11月	講演会「ひきこもりに向き合うためのヒント」 令和4年11月20日(日)13時30分～16時 麻布区民協働スペースまたはオンライン 内容：ひきこもりの概要、社会資源(関係機関・相談機関)について他
12月	ひきこもり学習会(年4回) ①令和4年7月16日(土) ②令和4年9月10日(土) ③令和4年12月3日(土) ④令和5年2月4日(土)(予定) 各日：13時30分～15時30分 芝浦区民協働スペースまたはオンライン 内容：ひきこもり状態への理解を深め、家族や周りの人たちが できることを考える学習会



講演会等のチラシ

(4) 受援力を学ぶ取り組み

日時	令和4年10月16日（日）14時～16時
会場	麻布区民協働スペース
参加者	59人
講演会	「受援力のススメ」
講師	吉田 穂波（神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科教授）
参加者からの感想	<ul style="list-style-type: none"> ・「受援力」という言葉は始めて聞きましたが、頼ることのポジティブな面に気づいたり、チームが協働する視点においても「受援力」が重要ということ学びました。 ・普段なかなか助けてと言えず一人で抱え込みがちでしたが、今日はたくさんの気づきや発見があり、今後勇気を少し出して周りの人を頼ってみようという気持ちになりました。
今後について	「受援力」という考え方が普及し、困ったときに「助けて」と発信しやすい関係を作るための普及啓発を継続していく。



講演会の様子

講演会のチラシ

助けられ上手は、お助け上手！

受援力のススメ

「相手は速に助けを求めたいから…」
「このままじゃ、誰か助けてほしい…」
「…美は、人へ頼ること、頼られること、
のためにも、自分から助けを求めたりする
「受援力」が、人へ頼ることで、
「助けられ上手」になる。助けを求めたりする
「受援力」が、人へ頼ることで、
「助けられ上手」になる。

とき 10月16日(日)
14時～16時

講師 吉田 穂波 氏
(神奈川県立保健福祉大学大学院
ヘルスイノベーション研究科 教授)

ところ 麻布区民協働スペース または
オンラインツール(Zoom)

定員 50人(会場:30人、Zoom:20人) ※申込順

申し込み 電話、ファックスまたは申し込みフォーム
(<https://forms.gle/Za5sKe5osreuU1a48>)で、
10月7日(金)までに申し込み。



◆問い合わせ・申し込み先◆
社会福祉法人 港区社会福祉協議会 地域福祉係
電話:03-6230-0281 FAX:03-6230-0285
メール:chiki@minato-cosw.net